

「齲蝕予防」「カリエスマネジメント」の  
実践のために！



月刊「デンタルハイジーン」別冊  
歯科衛生士のためのカリエロジー  
伊藤 中 著

AB判/128頁 定価：本体3,200円＋税  
医歯薬出版（2015年11月）

評・石原美樹（歯科衛生士）



歯周病を勉強する場合、書籍が多数出版されており、新人からベテランまでいろいろな視点から学ぶことができますが、齲蝕に関しては書籍選びに困っている方も多いのではないのでしょうか？ 私もカリエロジーに関する書籍を何冊も読んできましたが、どれも歯科衛生士には難しく、1人で読んで学ぶには相当なモチベーションが必要で、後輩のスタッフに薦めるのを躊躇することもありました。そのようななか、1冊で基礎から臨床応用まで学べる本書は、「待っていました！」と思わず声が出るような待望の書籍でした。

タイトルが「歯科衛生士のためのカリエロジー」ですから、歯科衛生士が学ぶのに適した工夫がなされています。本書は4つのChapterに分けられ、「40のポイント」と「10のケース」で成り立っており、各ポイントが見開き2ペー

ジで完結しているため、自分のペースで読み進められるのが魅力の1つ！そして、説明と図解が的確でとてもわかりやすく、この40のポイントはすぐに臨床で役立つものばかりです。

Chapter 1では、齲蝕の本質について8つのポイントから学べます。さて突然ですが、皆さんは「齲蝕」と聞いて何を思い浮かべますか？脳裏に浮かんだのは「齲窩」ではないですか？実は齲蝕と齲窩は異なるもので、齲蝕は「脱灰と再石灰化のバランスが偏り、脱灰が再石灰化を上回っている状態が持続していること」と、本書には書かれています。脱灰と再石灰化の揺れ動く流動的なプロセスが齲蝕なわけです。さらに「健康」と「齲蝕という疾患」の間には明確な境界線は存在していないとのこと。当たり前ですが、気づきもしないことを知ったときの衝撃はとても大きいものです。そんないい意味でのショックを、本書は与えてくれます。

Chapter 2の病因論のなかに、なじみ深い「カイスの輪」は出てきません。その代わりに「フェジエルスコフとマンジの図」という、一度では覚えられない名前の図が紹介されています。この図は、宿主・細菌・食事に加え、社会的地位・収入・教育・健康観などもリスク要因に含めていることで、多因子疾患としての齲蝕をうまく表現しています。齲蝕予防では、いろいろな角度から患者さんを診査・分析し、さらに時間軸を考慮しなければなりません。この図がその理解を深める一助となるはずです。

Chapter 3はカリエスマネジメントとして、さまざまなリスクを実際の臨床でどう修正していけばいいのかがまとめてあり、臨床で悩んだときに役立つ章になっています。

齲蝕の見方も予防のあり方もすこしずつ変化してきています。本書は、読んだ後に自分の臨床に当てはめていろいろなことを考え、一つひとつの症例を見直したくなる、そんな一冊です。